



## Lagoa Santa から Serra da Capivara へ —考古学・岩絵の旅

大竹 茂

### 弊社の考古学調査

私は今、ブラジルはミナスジェライス州 Juatuba 市にある自動車部品会社に勤務している。ここは、州都のベロオリゾンテ市から45km、車で約1時間のところにあり、先日、Juatuba 市文化局の要請に基づき、考古学者による考古学調査が行われた。ブラジルでも、環境対策や文化財の保護については厳しく管理されており、考古学文化財の保護については、連邦法 3,924/1961 に規定されている。

さて、当該考古学調査については、弊社の工場敷地については特段の問題はなかったが、近くの林からは古代土器片や石器片と思われるものが発見されたとのことであった。考古学に素人の私には、それらの品々が本当に考古学上の遺物かどうかはよくわからないが、当該地域は Reserva Legal (法的管理地) として管理されることになった。

### Peter Wilhelm Lund —ブラジル古生物学、考古学、洞窟学の父

ミナスジェライス州は考古学上の遺物が豊富で、特に Lagoa Santa は有名である。Lagoa Santa はベロオリゾンテから 35km のところにあり、Confins 空港の近く

にある。当該地域は石灰岩を多く含むカルスト地形でできており、多くの鍾乳洞がある。

Lagoa Santa は、デンマーク人の自然科学者である Peter Wilhelm Lund (1801年6月14日コペンハーゲン生まれ、1880年5月25日 Lagoa Santa にて永眠) の研究により有名になったが、彼はブラジルの古生物学、考古学、洞窟学の父と呼ばれている。

Lund は 1824 年、コペンハーゲン大学で医学を修めた後、翌 1825 年から 29 年中頃にかけてブラジルに滞在し、リオデジャネイロを基点に各地を巡り、多くの植物学、動物学の標本を収集した。1829 年中頃に一旦ヨーロッパに戻り、同年 11 月 Kiel 大学にて博士号を取得した。その後、1833 年 1 月に再度ブラジルを訪れ、永住することになり、二度とヨーロッパに帰ることはなかった。1833 年には有名な植物学者である Ludwig Riedel (1790 年 3 月 2 日ベルリン生まれ、1861 年 8 月 6 日リオデジャネイロにて永眠) の知遇を得て、翌年 11 月まで、彼と一緒にリオデジャネイロ州、サンパウロ州、ゴイアス州、ミナスジェライス州を回り、学術調査をすることになる。また、1834 年 10 月、ミナスジェライス州 Santo

Antônio de Curvelo 市にて、自分と同じデンマーク人の Peter Claussen (冒険家、硝石・大型動物化石の商人) と知り合い、洞窟研究を始める。

1835 年 10 月より Lagoa Santa に住みはじめ、1845 年まで精力的な研究活動を行い、ミナスジェライス州の約 800 の洞窟を探検し、12,000 の動物や人の化石を収集した。しかしながら、1845 年、資金不足の理由で突然洞窟研究を止め、それまでに採集・発掘したコレクションをデンマーク王 Cristinao 8 世に献上した。それから、亡くなるまでの間、多くの訪問客を受け入れ、1880 年 5 月 25 日、Lagoa Santa で永眠した。

### Peter Wilhelm Lund と Charles Darwin

Lund は Darwin (1809 年 2 月 12 日英国生まれ、1882 年 4 月 19 日英国にて永眠) と同時代の人で、Lund がブラジルに移住した(1833 年 1 月) 頃は、Darwin もちょうどビーグル号で世界航海をしている頃で、ブラジルには 1 年前の 1832 年 2 月 29 日サルバドルに到着し、その後 4 月 4 日リオデジャネイロ到着、同年 7 月 5 日、パタゴニアに向けてリオデジャネイロを出発するまでブラジルに滞在し

ている。二人の世界的な自然科学者が同じ時期にブラジルにいたことは、歴史の偶然と言えるかもしれない。

また Darwin は、あの有名な 1859 年に発表された『種の起源』の第十章で、「Lund と Clausen がブラジルの洞窟で収集した骨の化石はとても素晴らしい」と述べている。

(on THE ORIGIN OF SPECIES: Chap.X. Same Types in Same Areas “This relationship is even more clearly seen in the wonderful collection of fossil bones made by MM.Lund and Clausen in the caves of Brazil.”)

したがって、Lund のブラジルでの研究は Darwin に大きな影響を与えた可能性がある。



Lapa Vermelha IV (Vermelha 第四洞窟) と、案内してくれたミナスジェライス州政府の Mariana 植物技官。1975 年に、ここであの Luzia が発見された  
(写真はいずれも筆者撮影 2017 年 6 月)

### Luzia - 最初のブラジル人

他にも Lagoa Santa で忘れてはならないものがある。それはブラジル最古の人の頭蓋骨化石である。これは 1975 年、Annette Laming-Emperaire 博士を団長

とする仏・伯合同調査隊により Lagoa Santa の Lapa Vermelha IV (Vermelha 第四洞窟) から発見されたもので、11,500 年前の 20~25 歳くらいの女性のもので、ブラジル最古の人骨化石と言われている。

発見後、長らく、リオデジャネイロの国立博物館に他の発掘品と一緒に保管されていたものを、サンパウロ大学の Walter Neves 博士が形態学的に分析したところ、祖先は現在のインディオの祖先と言われているモンゴロイドではなく、オーストラリアのアボリジニーやアフリカ人の形態に近いとの発表がなされ、当該人骨化石は Neves 博士により “Luzia” と名付けられた。1999 年には、ブラジルの有名週刊誌である *Veja* が「“Luzia” a primeira brasileira」として取り上げ (1999 年 8 月 25 日号)、英国 BBC 放送も、1999 年 9 月 1 日の放送で “The First Americans were Australian” として大きく取り上げた。

それまで、古代アメリカ人の祖先はモンゴロイドで、北東アジアからベーリング海峡を渡って、北米、中米、南米と移動してきたとの考え方が一般的であったため、大きな波紋を呼んだが、Neves 博士は、アメリカ人の祖先には二つの波があり、第一の波は今から 14,000 年前にニグロイド系の祖先がベーリング海峡を渡ってアメリカ大陸に到達し、これが Luzia の祖先で、現在のアメリカインディアンの祖先と言われるモンゴロイド系の祖先は今から 12,000 年前頃と同じくベーリング海峡を渡ってアメリカ大陸に渡ってきたとの説である。

私は Luzia が発見された Lapa Vermelha IV を実際に見てきた



Luzia の頭蓋骨のオリジナル  
リオデジャネイロの国立博物館 (MUSEU NACIONAL) 所蔵



Luzia の復元顔  
(同上)

が、ここは私有地 (Mineração Lapa Vermelha セメント会社) となっていて、洞窟は一般公開されておらず、ミナスジェライス州の管理下であり、特別の許可を得る必要がある。

洞窟そのものは大きなものでなく、岩絵もいくつか残っているが、風雨にさらされてはっきりしていないものの、鹿の絵をご覧頂きたい。



Lapa Vermelha IV の岩絵のひとつで、鹿を表していると思われる

## カピバラ山地国立公園と Niéde Guidon 博士

ブラジルの岩絵を語る時、カピバラ山地国立公園の岩絵を外すわけにはいかない。この公園はピアウイ州の奥地にあり、広さ 129 千ヘクタール、これまでに約 750 か所の岩絵が発見され、そのうち 172 か所が公開されている。1991 年にはユネスコの人類文化遺産に認定されており、1992 年よりブラジルの有名な考古学者の一人である Niéde Guidon 博士が定住し、考古学の研究と考古学遺跡の保護に献身的な努力を捧げている。

この遺跡からは 50,000 年前の炭が発見されており、Guidon 博士

は、南米大陸には 100,000 年前から人類が住み着いている可能性があるとの説を持っている。それも、アフリカから海路により渡ってきた可能性があるとしている。すなわち、氷河期の頃は、海面が現在よりも 120m 程低く、アフリカから南アメリカへ島々をたどりながら渡ってくることは可能であったとしている。

カピバラ山地公園の岩絵は当時の様子を生き生きと写している。できれば是非、現地を訪れ、現代の喧騒から抜け出し、古代のロマンの世界に迷い込んでいただきたい。但し、交通の便が良くないため、時間的な余裕が必要である。

## 結び

2007 年、メキシコユカタン半島の海底 40m で人骨が発見され、Naia と名付けられた。James C. Chatters 博士のチームが 2014 年 5 月 15 日の“SCIENCE”に、Naia は今から 13,000 年から 12,000 年前頃の 15～16 歳の少女もので、形態学的にはアフリカニグロイドに近いが、ミトコンドリア DNA の検査により「mtDNA ハプログループ D1」と呼ばれる遺伝子マーカーが検出され、祖先は現在のアメリ

カインディアンの祖先と同じもので、形態学的な相違は、長い進化の中で起こったとの説を発表した。

しかしながら、私にとって興味があるのは、Lagoa Santa の Luzia もメキシコの Naia も形態学的にはニグロイドに近いということである。また、メキシコのオルメカ文明の人頭石のふ厚い唇はニグロイドのそれに近いような気もする。古代アメリカ人の祖先が、いつ頃、どこから、どのようにアメリカ大陸に渡ってきて、どのような生活をしてきたかということについては、今もいろいろな説があり、エキサイティングである。

私の会社の考古学調査が、私に考古学に対する興味を深めさせてくれたが、これからも新しい発見がどんどん発表され、新しい説がどんどん発表され、ロマンに満ちた時間を過ごせればこれ以上の幸せは無い。

(おたけ しげる CEO e Presidente, S Riko Automotive Hose do Brasil Ltda および S Riko Automotive Hose Tecalon Brasil SA)

筆者座右の銘

“En todas las cosas de la vida se puede encontrar placer, si se sabe saborearlas”  
Ángel Ganivet García



カピバラ山地公園の岩絵で、人が動物を追いかけようとしている様子が描かれている



カピバラ山地公園の様子。一瞬トルコのカップドキアを思わせるような風景